

論文番号 50

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名(原題/訳)

Evaluation of Two Putative Susceptibility Loci for Oral Clefts in the Danish Population

デンマークにおける口蓋裂の二つの確立した遺伝子障害部位の評価

執筆者

Laura E Mitchell, Jeffrey C Murray, Sarah O'brien, Kaare Christensen

掲載誌(番号又は発行年月日)

American Journal of Epidemiology 2001;153:1007-15

キーワード

Case-control studies, cleft lip, cleft palate, genetics

要旨

症状のない裂唇発症症例において、口蓋裂の有無の如何にかかわらず、その発症危険因子として、遺伝子上の数箇所の部位における変異が指摘されている。そして、その遺伝子変異と疾病発症危険度は環境要因によって修飾されることが過去の研究により明らかになっている。そこでこの研究では、口蓋裂の有無に関わらない無症状の裂唇発症が、二つの確立した遺伝子障害部位の MSX1 と TGFB3 との関連において、妊娠期間最初の 3 分の 1 の時期における喫煙と飲酒習慣がどのように関連しているかを検討した。この研究は、デンマークにおいて症例対照研究として実施された。その結果、飲酒、喫煙は、MSX1 と TGFB3 の遺伝子変異との相互作用を検討しても、裂唇発症との関連は見出せなかった。本研究課題については、さらにコホート研究を実施して確認する必要がある。